

ヨハネによる福音書21章15～19節

●「働き方改革」で最も問われるべきことは「働き方」よりも「私たちの価値観」なのではないかと感じます。自らの力を頼りに上を目指して突っ走ることが必ずしも幸せに繋がるわけではないという事に気づき始めている現代、何のために働き、またどのように生きるべきかを考えるべきなのです。

今日の聖書は、復活のイエス様と弟子ペトロとの対話ですが、このペトロもまた大きく働き方(生き方)が変えられていった人物だったのです。

●12弟子の一人ペトロは最もイエス様のそばにしながら、イエス様の事を理解できず、様々な失敗をし、最後にはイエス様を三度「知らない」と言って裏切ってしまいました。そのペトロに復活のイエス様が現れ「私を愛するか」と尋ねられます。そしてペトロは「はい、主よ、私があなたを愛していることは、あなたをご存知です」と三度、答えています。ただイエス様が問いかけた「愛」は「アガペー(無条件の愛)」、ですがペトロの答えた「愛」は「フィレオー(兄弟愛などを意味する)」となっていて、ここには以前と変わらずイエス様の思いに応えきれない不完全なペトロの姿があるのです。

●そんなペトロに、イエス様は今日の箇所ですら3つのことを教えられます。

1 つ目「私の羊を飼いなさい」。イエス様は、相変わらず自分中心で生き迷うペトロに、人間の「生きる目的」について教えられたのです。困っている人を助け励まし、分かち合い生きる事にこそ、本当の喜びがあり神様からの祝福があるという事です。

2 つ目は「あなたは若い時は、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れていかれる」。これは「殉教しなさい」という教えではなく、相変わらず自分の力により頼み生きようとしているペトロが、これから年を重ねるごとに「自分」ではなく「イエス様」に全てを委ねて生き、そして死を迎えるようになるだろうと教えられたのです。

そして3つ目、「私に従いなさい」と言われました。イエス様はペトロに、ご自分に従うことによって自ずと主に全てを委ねて生きる人生が与えられることを教え、招かれたのです。

●ヘンリ・ナウエン神父は「歳を重ねるということは、一步一步闇へ向かような歩みであり、同時に全てを委ねる事のできる『光』へと向かう道なのだ」と言いました。

力や若さがある時には見えない「キリストの光」が年を重ねる毎に強くなり、その存在に全てを委ねる平安へと導かれるのだと教えているのです。私たちも、キリストに繋がりを続けるうちに、少しずつ重荷を解かれ「主に委ねる者」とされていく事を共に信じ、歩んでまいりましょう。